

sicle 608P

WINKER POSITION CONTROL

この度は弊社製品<シエクル608P>をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。本製品はウィンカーランプをポジション化することが出来るキットです。本体のディップスイッチの切り替えにより簡単にノーマル状態に戻すことが可能です。

本製品を安全にご使用して頂く為に、装着ならびご使用前に必ず本説明書を読んで、内容を十分に理解のうえ取り付け作業をおこなって下さい。

お願い 本製品は性能向上などの理由により取り扱い説明書の変更をおこなっております。お手元の取り扱い説明書のVol番号が最新でない場合はお手数ですが当社ホームページを閲覧のうえ、最新版の取り扱い説明書を参考に取付作業、調整をおこなって下さい。

注意！ 車検については【車検について】の項目を参考して下さい。（*スイッチでノーマル状態にすれば車検は問題ありません）
使用・調整はお客様の自己判断、責任においておこなって下さい。

△ 危険 この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、本人または第三者が死亡または重傷を負う可能性が想定される差し迫った危険な状況を示します

- 本製品および付属品は確実に固定し、運転の妨げになる場所・不安定な場所に取り付けしないでください。運転に支障をきたした事故の原因となります。
- 本製品の装着により車両に異常が出たままの状態で行き続けると、予期せぬトラブルを誘発するばかりでなく、事故を招く可能性があります。性能が損なわれている場合は専門業者に点検、整備を行ってください。
- 本製品の加工・分解・改造などは一切行わないでください。事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。加工・分解・改造等の形跡が見られた場合、クレーム・修理の対象外とさせていただきます。
- エンジン本体、ラジエター、排気関係の部品は高温になり、火傷の恐れがあります。必ず各部品の温度が下がってから作業 をはじめてください。

△ 警告 この表示を無視して誤った取り扱い・作業を行うと、本人または第三者が軽傷または中程度の傷害を負う可能性が想定される潜在的に危険な状況を示します

- 本製品は車両電源がDC12V車用です。12V/24V兼用車または、24V車には使用しないで下さい火災の原因となります。
- 本製品の取り付け時は使用しない配線などは絶縁テープを巻くなどして必ず絶縁対策を行ってください。ショートなどにより火災、電装品、エンジン、車両の破損の原因となります。
- カプラーを外す場合には無理にハーネスは引っ張らず、必ずカプラーを持って取り外してください。ハーネスが破損すると、ショートなどにより火災、電装品の破損、焼損原因となります。また製品の故障の原因となります。

△ 注意 この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、物質損害を負う可能性が想定される潜在的に危険な状況を示します。

- 取り付け作業のために一時的に取り外す純正部品は、破損、紛失しないように大切に保管してください。弊社では、取り付け作業による物的損害の責任を負うことが出来ませんので慎重に作業を行ってください。
- 本製品は精密部品ですのでハーネスの取り回しで強力な信号、ノイズの発生しやすい箇所は避けてください。誤作動する恐れがあります。
- 本製品に付属するハーネスは耐熱部品ではありませんので高温部を通す場合は必ず熱対策をおこなってください。

<取り付け方法>

◎取付作業には配線加工をしますので圧着ペンチ、絶縁テープ、電圧計テスター等が必要です。

* 誤配線・接触不良による本体破損はクレームの対象にはなりませんので慎重に取り付けてください。

◎ヘッドライト・バンパー等はずして作業したほうがスムーズに取り付けがおこなえる場合があります。判断してから作業をおこなって下さい。

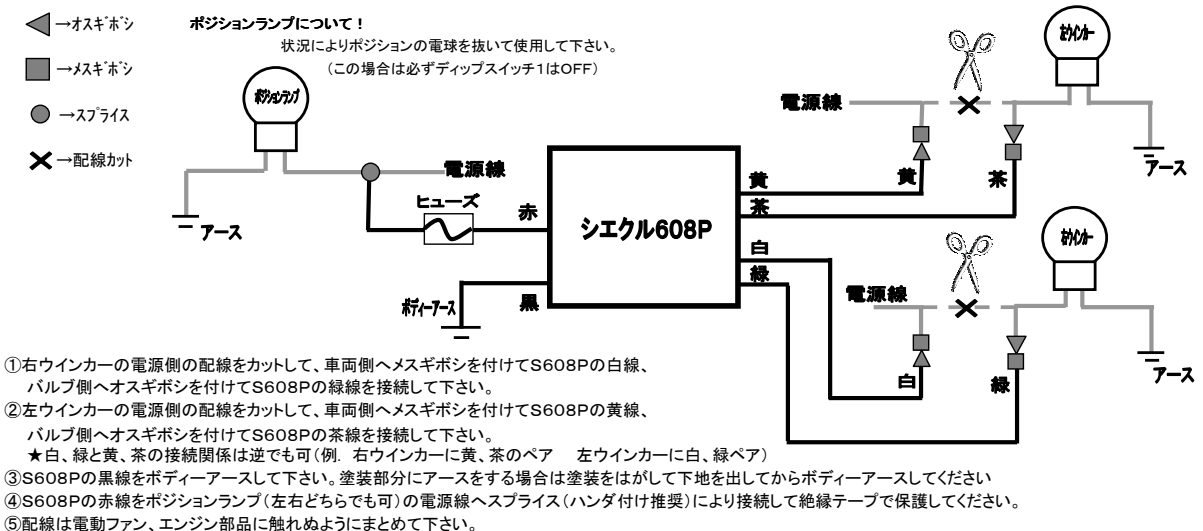
* 取り外し方などはディーラー、専門業者に問い合わせてください

注意！：最大(21W×2個)以上の電球には対応出来ません。

：法令に従った方法を考慮し、自己責任にて使用して下さい。

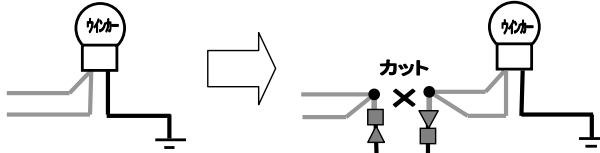
参考/ギボシの使用法	参考/スプライスの使用法
<p>* 配線の先端を10mm程度被服をむきます。銅線を半分に折り返してください。</p> <p>* スリーブを通してからギボシを付けます。</p> <p>* 半分に折り返した銅線をギボシの首部分で圧着し、被服部分をギボシの後側で圧着します</p>	<p>* 配線の適当な場所の被服を5mm程度むきます。</p> <p>* S608Pの配線の先を10mm程度被服をむき、車両配線へ巻きつけます。</p> <p>* スプライスを接合部にあて、圧着ペンチでかめめます。</p> <p>* ビニールテープにて接合部を絶縁します。</p>

【配線図】 ウィンカーポジション



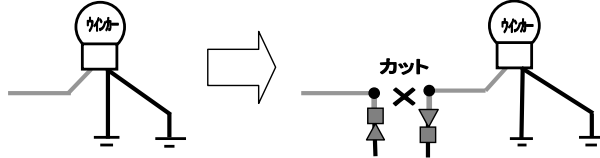
<バルブより3本配線が出ている場合の配線方法> * 電源が2本の場合とアースが2本の場合があります。テスターにて確認してから配線をおこなってください。

●パターン1(電源線2本、アース線1本)



→ウインカー球より出ているアース線以外の同色の2本の線をカットします。
→カットした線をそれぞれ束ね、ギボシを付けます。
→608からの配線を接続します。
* 左右の片側が3本線になっている車両もあります。
* 2000年頃生産のホンダ車に多く見られます。(オデッセイRA6他)

●パターン2(電源線1本、アース線2本)



→ウインカー球より出ているアース線以外の1本の線をカットします。
→カットした線にギボシを付けます。
→608からの配線を接続します。
* 左右の片側が3本線になっている車両もあります。
* 2000年頃生産のホンダ車に多く見られます。(ステップワゴン他)

<動作確認>

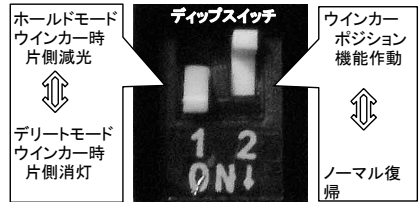
- ポジションランプONにて動作します。
- ウインカーの動作状態は下表にて確認して下さい。

【ディップスイッチの機能】

【デリート⇒消灯/ホールド⇒減光点灯】

ホールドモード	ウインカーOFF	右ウインカーON	左ウインカーON
右ウインカー	減光(調整可)	ノーマル作動(点滅)	ホールド作動
左ウインカー	減光(調整可)	ホールド作動	ノーマル作動(点滅)

デリートモード	ウインカーOFF	右ウインカーON	左ウインカーON
右ウインカー	減光(調整可)	ノーマル作動(点滅)	デリート作動
左ウインカー	減光(調整可)	デリート作動	ノーマル作動(点滅)



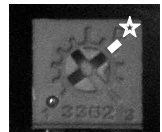
- ウインカー状態からポジション状態に切り替わる時に若干のタイムラグがあります。
- ディップスイッチ2をON ↓側になるとノーマル状態になります。(ノーマル状態とは608Pを装着しない作動状態です。)

<減光状態の調整方法>

注意！昼間に光度のボリューム調整をすると明るすぎる調整になってしまいます。必ず調整は夜間におこなってください

- 減光状態の光度をボリュームにより調整出来ます。精密ドライバーにて調整をおこなってください。
- ボリュームを右に回すと明るくなり、左に回すと暗くなります。
- ボリュームの☆印(右図)の位置が推奨になります。☆印を中心に調整をおこなってください。(必ず夜間調整！)

光度調整ボリューム

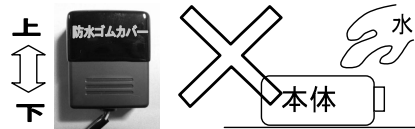


<本体の固定の仕方>

- エンジンルーム内で熱・水の影響の受けにくい場所へ両面テープにより固定して下さい。
- 設置場所は埃や水分、油分を脱脂してから固定して下さい
- 必ず調整面を上にして固定して下さい。平面もしくは水平に固定されると水の混入する可能性が高く本体破損につながります。

注意！本体を外的高温部分付近に取り付けられますと本体の破損をまねく可能性があります。

又、本体をバンテージやスポンジ等にて巻きつけることは絶対にさせて下さい。なるべく本体が冷えるように考慮した取り付けをおこなってください。



<トラブルシューティング>

- ウインカーを出したときにハイフラッシャーになる。(超高速点滅)
→車両のウインカーの電源線をカットしてギボシ(オス・メス共)を接続した部分の接触不良が考えられますので圧着しなおしてください。
- 前方のウインカー以外も点灯してしまう(サイド・リアがポジションニングする)
→車両のウインカーのアース線に接続しています。電源線側に接続しなおしてください。
- ポジション点灯しない
→608Pから出ている赤線と車両のポジションランプ線の接触不良が考えられますので圧着しなおしてください
→608Pから出ている黒線のアースが接触不良をおこなっていますので塗装面の固定されている場合は塗装をはがすなどするかアースポイントを変更してください
* バッテリーに一時的に接続して作動確認も行えます。
- 光度調整ボリュームが効かない(明るさが変わらない)
→608Pから出ている黒線のアースが接触不良をおこなっていますので塗装面の固定されている場合は塗装をはがすなどするかアースポイントを変更してください
- ヒューズがポジションにしたときに切れた
→車両のポジションランプをアース線に接続している事が考えられますので配線しなおしてください
→配線のショートにてヒューズが切れた場合は原因を完全に直してからヒューズ交換をおこなってください。(5A/30mm)
- 純正パーツが作動すると同調して動作してしまう(例:ウインカーポジションを作動させるとコーナーセンサーが誤作動する)
→ハーネス等からノイズを感知して動作してしまうのでハーネスの這わせ方を工夫するなどして設置してください

<車検について>

車検については各陸事、検査場により多解釈方法の違いがありますが、当社にて調べた国土交通省保安基準では保安基準適合です。下記を参考に判断して下さい。

<~2005年12月31日以前に製作された自動車>

- 保安基準<自動車>第34条 適用整理 第32条 一平成十七年十二月三十一日以前に製作された自動車については、保安基準第三十四条の規定並びに細目告示第四十五条、第二百三十三条及び第二百一一条の規定にかかわらず、次の基準に適合するものであればよい。
- 保安基準<自動車>第34条 適用整理第32条<二><ロ> 一車幅灯の灯光の色は、白色、淡黄色又は橙色であり、そのすべてが同一であること。
- 保安基準<自動車>第34条 適用整理 第32条<四> 一方向指示器又は非常点滅表示灯と兼用の前面の両側に備える車幅灯は、方向指示器又は非常点滅表示灯を作動させている場合においては、前号への基準にかかわらず、方向の指示をしている側のもの又は両側のものが消灯する構造でなければならない。

従来の前側車幅灯が橙色でない場合は、車幅灯の電球をはずすか、コネクタを抜き、車幅灯の色を1色にすることにより保安基準適合
方向指示器を出した時の設定はディップスイッチ1をON、OFFどちらでも可です。

<2006年1月1日以降に製作された自動車>

- 保安基準<自動車>第34条 細目告示 第2節 第123条<二> 一車幅灯の灯光の色は、白色であること。ただし、方向指示器、非常点滅表示灯又は側方灯、構造上一体となっているもの又は兼用のもの及び二輪自動車、側車付二輪自動車並びにカタビラ及びそりを有する軽自動車に備えるものにあつては、橙色であつてよい。

一車幅灯の色が白色に指定されましたが、例外にて橙色もみとめられています。
車幅灯の電球をはずすか、コネクタを抜き、車幅灯の色を1色にすることにより保安基準適合となります。
方向指示器を出した時の設定はディップスイッチ1をON、OFFどちらでも可です。